

## はじめに



平成17年3月の合併による新米子市誕生後のまちづくりとして、本市では、平成18年に策定した「新米子市総合計画（米子いきいきプラン）」に基づき、「新市の一体性の確保」と「市民との協働によるまちづくり」を理念に、市の将来像である「生活充実都市・米子」の実現に向けた取組みを進めてまいりました。

しかしながらこの間、人口の減少や少子・高齢化の加速、個人消費の伸び悩みや世界的な不況などによる経済の長期低迷、地球環境問題の深刻化、自治体構造改革の影響など、社会経済情勢は大きく変化し、多様化、高度化する市民ニーズなどとあいまって、本市の行財政運営はますます厳しいものとなっています。

また、去年の暮れから年始にかけての記録的な豪雪による雪害や本年3月に発生した東日本大震災によって、防災対策や災害時の危機管理のあり方が改めて問われており、今後わが国は、社会の仕組みや、産業経済の動向、人の価値観などあらゆる面において、さらなる変動・変革の時代を迎えることも予想されます。

地方自治体には今、確固たる行財政基盤を確立し、将来にわたって持続可能な行政システムの構築を図るとともに、地域社会のさまざまな課題に対応しながら、自らの責任と判断で主体的な行政運営を行っていくことが求められています。

こうした状況の中、今後の中・長期的なまちづくりの指針として、第2次米子市総合計画を策定しました。

まちづくりの主役である市民一人ひとりが個性を発揮し、自らの可能性を高め、希望と生きがいを持って暮らすことができる「ひと」にやさしいまちをめざすこと。生活にかかわるさまざまな面での質を総合的に高めることによって、豊かさを実感できる成熟したまちをめざすこと。市民活動の活性化や産業振興を図るとともに、自然と共生する社会づくりを推進し、将来に向かって発展する基盤をつくること。市民や行政、企業など多様な主体が相互に協力関係を築き、ともにまちづくりを進めること。

これらの視点を持ちながら、魅力あふれる定住地域としての将来像を描き、鳥取県西部圏域はもとより、中海圏域の中核都市としてさらなる発展を遂げていくため、地域のポテンシャルを活かしたまちづくりに全力で取り組んでまいります。

引き続き市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、市民アンケートやワークショップへの参加などを通じ、貴重なご意見・ご提言をお寄せいただきました市民の皆様、長期にわたりさまざまな視点で熱心にご審議くださいました総合計画審議会委員の皆様、市議会議員の皆様など、計画の策定にあたりご協力をいただいた方々に心からお礼申し上げます。

平成23年9月

米子市長 野坂康夫